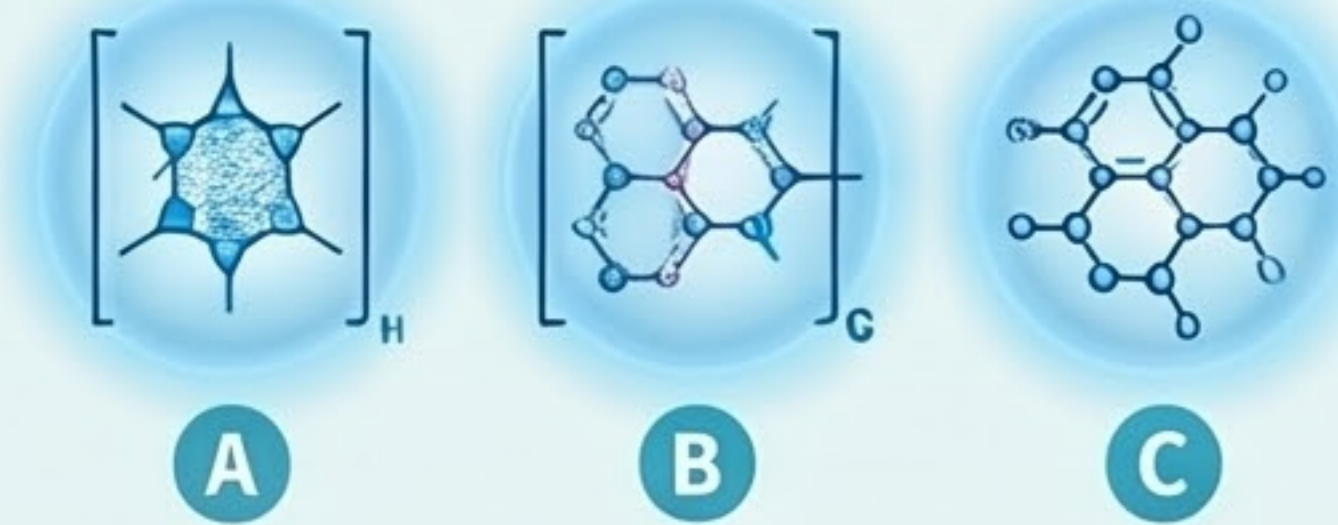


材料・化学・光学系発明の進歩性判断：令和7年(行ケ)10043号・10023号判決の統合的理解

第10043号事件 (透明スクリーン用塗料)



周知の「活性エネルギー線硬化性樹脂」を選択することの動機付けが否定され、進歩性が認められる方向で審決が取り消された事例。

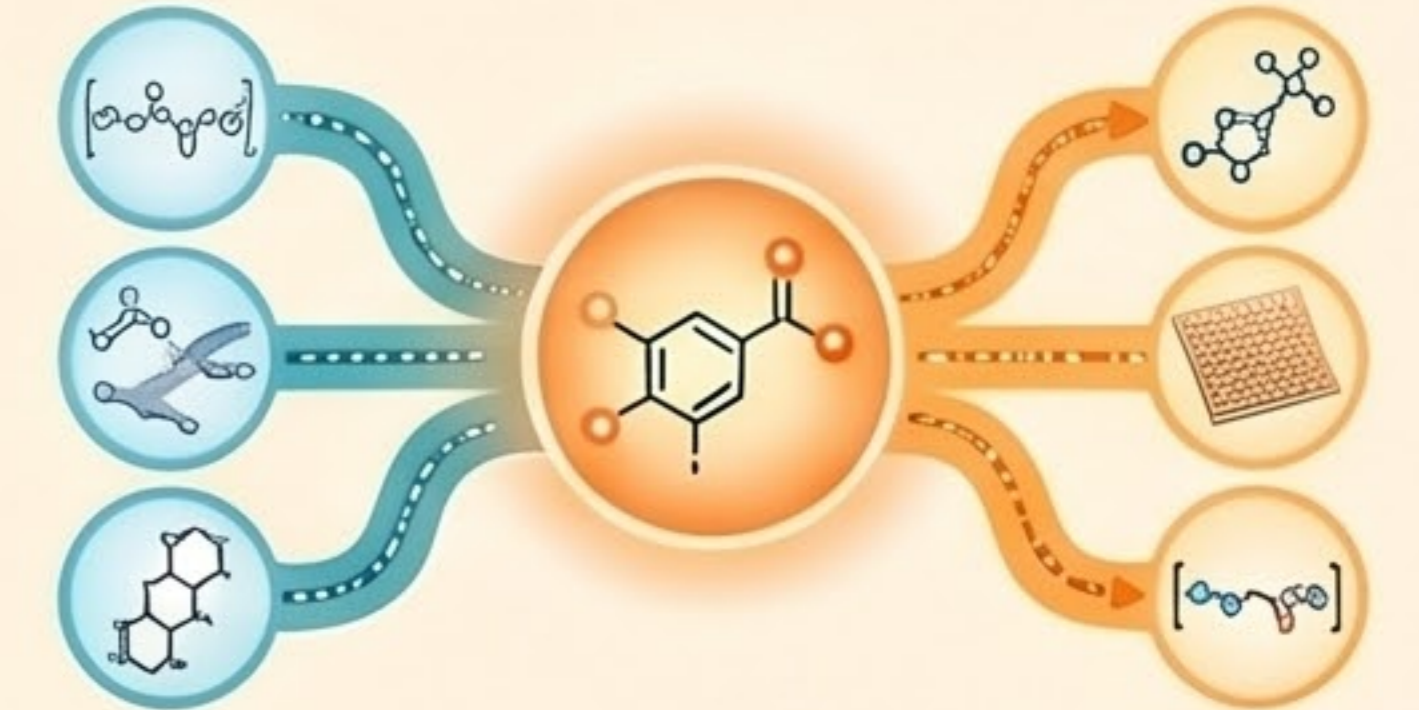


2つの重要判決の概要

第一の軸：選択の動機付け（「選べる」か「選ぶ理由がある」か）



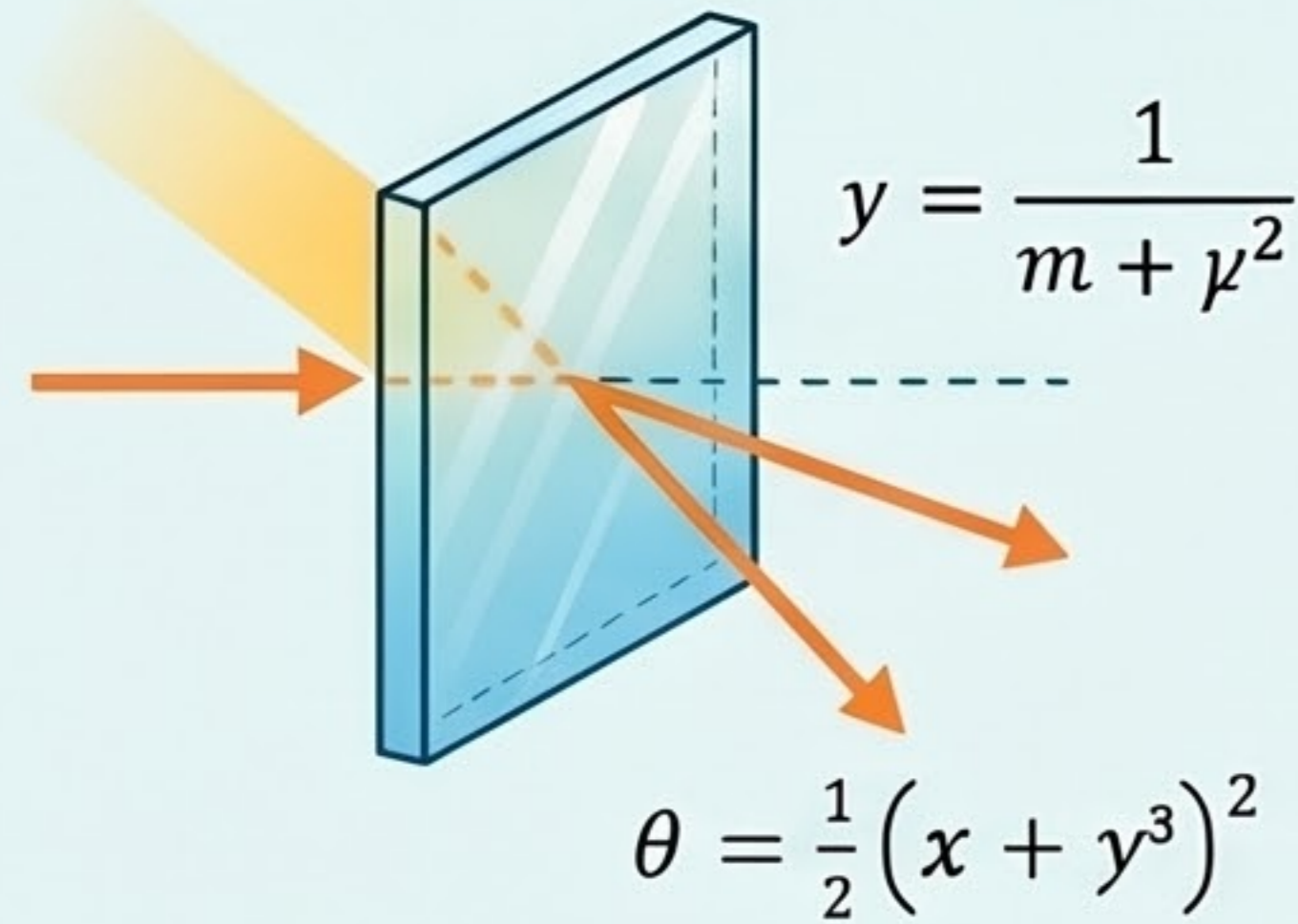
第10023号事件 (熱可塑性樹脂組成物)



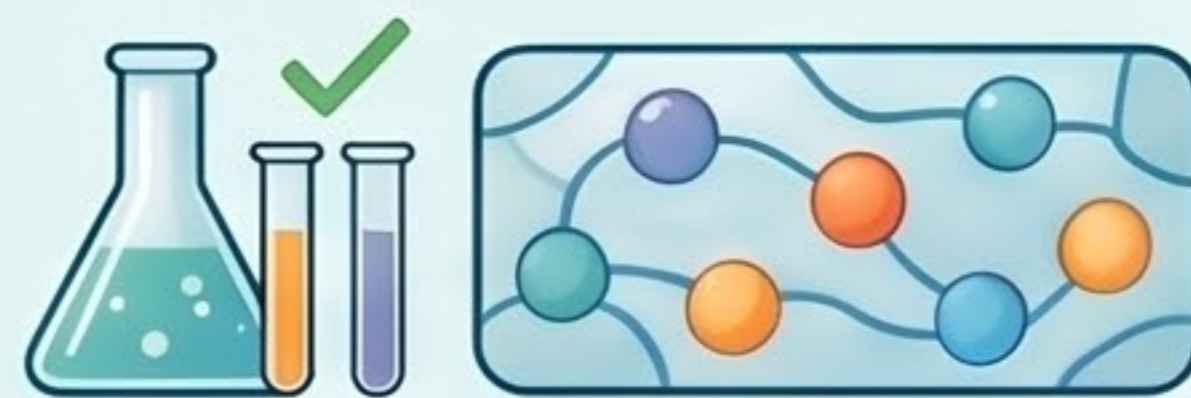
引用文献間の具体的な示唆に基づき「特定の紫外線吸収剤」を選択する動機付けが肯定され、進歩性を認めた審決が取り消された事例。



第二の軸：顕著な効果（「予測可能性」と「請求項全域性」）



一般理論（屈折率差理論）の限界
一般理論が実験の実験データと矛盾する場合、その理論だけで効果を「予測可能」と断定することはできない。



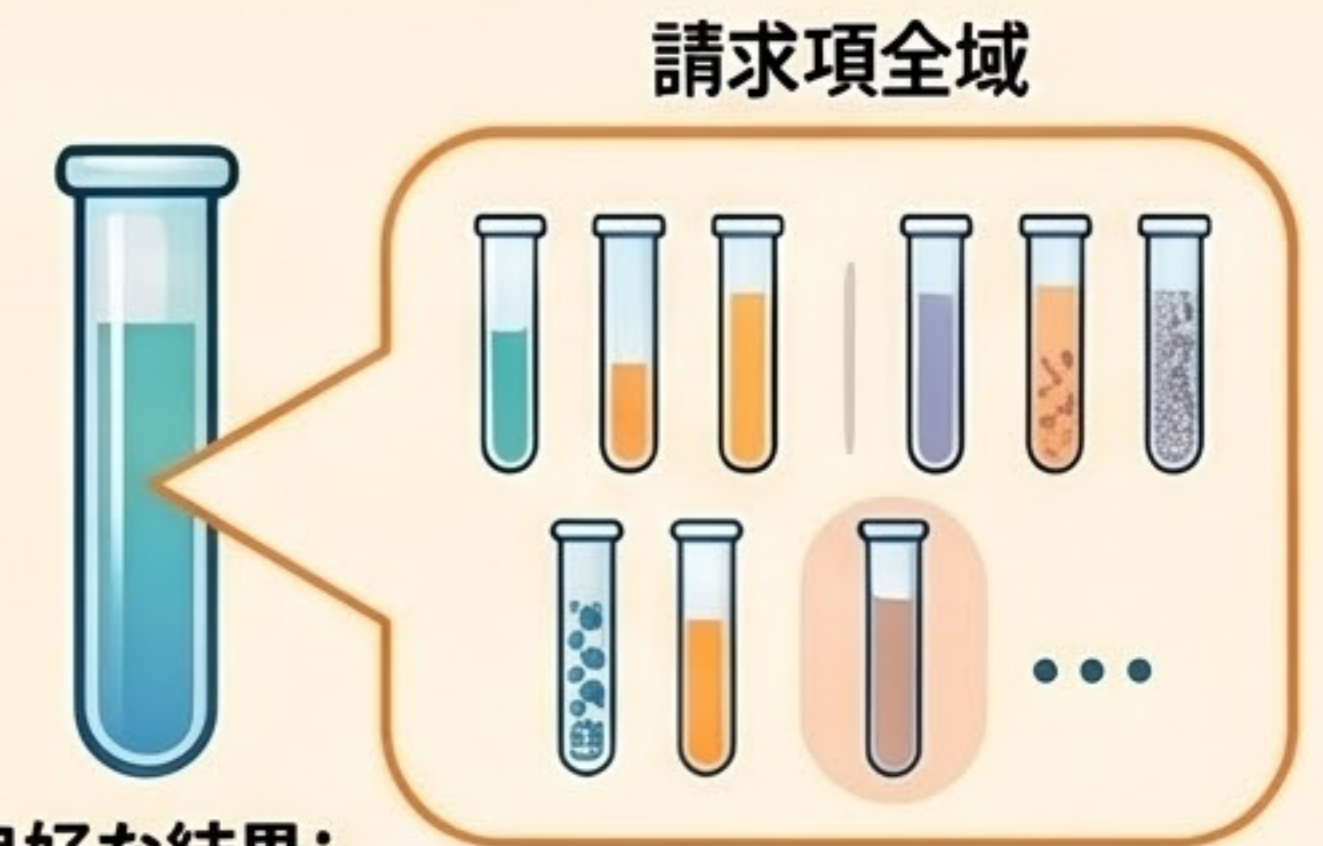
交絡要因の排除

効果が「特定の樹脂」に由来するのか、他の添加剤（シランカップリング剤等）に由来するのかを比較実験で判明にする必要がある（案10043号の判断）。



請求項全域への効果帰属

特定の実施例で良好な結果が出ても、請求項に含まれる広範な化合物群全体で同様の効果があると言えなければ、進歩性の視認にはならない。



良好な結果：濃度変化ゼロ

実務への示唆：出願・権利化のチェックリスト



出願段階：代表例の複数配置

広い請求項を支えるために、構造差や数値範囲の相階値（上階・下階）近隣の莫範例・比較例を掲げ、効果の持続性を証明する。



拒絶・無効対応：技術的文脈の再構築

引用文献に具体的誘導があるか、あるいは単に周知材料を羅列しているだけかを精査し、材料選択の「必然性」を争う。

判断要素	第10043号事件	第10023号事件
周知技術の扱い	並行的な周知選択肢の一つ	引用文献間に具体的誘導（構返し）あり
動機付けの成否	否定（選ぶ理由なし）	肯定（確認・構返し契機あり）
効果の予測	一般理論が具体例と不整合	実施例の効果を請求項全体へ一般化不可
結論	進歩性なしとする審決を取消	進歩性ありとする審決を取消